

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600013		
法人名	社会福祉法人 双友会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護(介護予防)つつじのさと		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津字前田1187-1		
自己評価作成日	平成25年11月8日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して暮らせる環境を第一に考えています。このグループホームつつじのさととは、礼節を基本に専門職として自信と誇りを持ち、サービス提供をさせて頂いています。利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮する支援を大切にすることで、安心して生活の継続ができると思っています。スタッフは、同性での支援を心がけ、入浴・排泄等、利用者様のプライバシーを守り、不安なく安心して生活できる環境を整え支援させて頂いています。

地域の中で関わりを持ちながら、グループホームの良さを生かせるよう支援させて頂いています。今年は、屋外活動が充実させ、外出(外食)支援に力を入れ取り組みました。利用者様の希望等に添い、外出(外食)の計画・調整行い、熊本城、杖立て温泉の鯉のぼり等、楽しいひと時を過ごし思い出をつくることができました。また、御家族からの提案で、家族と利用者、スタッフとの食事を計画し、高森の郷土料理である田楽を頂きながら、楽しい時間を過ごし親睦を深めることができました。家族や地域との関わりを大切にしています。

今年度は更に地域・家族との連携を深め、多くの外出支援が展開されていることや、自己評価を含め外部評価への真摯な取り組みは大いに評価できる点である。「礼節」を心掛け、寄り添いの支援の中で、それぞれの思いを受け止め、職員間で共有していくホームのケアの基本が確立していることは、職員の自信と誇りを大切に笑顔で業務に当たる姿にも表れている。何気ない毎日の中でも四季の移り変わりは壁面や花・観葉植物に限らず、朝は季節に応じてカーテンを開け、朝日を浴びて一日をスタートしてもらおう工夫など細やかな配慮が随所に感じ取れる。すり鉢に山椒のすりこぎを潰れた手つきで職員さんをリードしながら白和えを作られる方や、「ここはよかとこですもん!」と、誇らしげにホームの説明をしてくださる入居者の姿に来訪者の心も温まる。今後後も多機能事業所と連携を図りながら、地域の中で継続した取り組みが行われることに大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングには、理念に振り返り、意識共有するよう気持ちを確認します。毎朝（7:50、10:50）申し送りは、その日のスタッフと顔合わせ行います。まず、気持ち良く挨拶行い、これから支援する意識を共有すること、礼節を心がけています。利用者、家族また地域との関わりが持てる支援を大切にしています。	ミーティングや申し送りの中で理念の振り返りや共有する機会を持ち、職員は「つつじのさと」の一員として利用者・家族・地域の人々に信頼され、誇りを持って日々のケアにあたっている。年目標の一つに掲げた「礼節」は、更に職員の志を高めている。新人職員には研修の中で方針や理念について伝え、推進会議の中でも、理念を踏まえて話を行うなど、ホームに関わる人々への理解や共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝、地域密着型の施設周りの清掃行い、地域の方と挨拶を交わし顔馴染みになってます。毎月初めには、近隣のゴミ拾い清掃活動を行っています。地域（中央区）の防災会議、訓練に参加、地域の方と関わりを持ちながら、防災活動に取り組んでいます。地域の行事（つつじ祭り、地蔵祭り等）にも、参加、協力しながら交流を行っています。	入居者の外出の機会は地域の人々との交流の機会を深め、ホームや認知症への理解にも繋がっている。また、職員は地域への挨拶を心がけ、防災活動をはじめ、行事やイベントにも積極的に参加を行っている。この春には地域の人々の参加・協力により、カラオケ大会を開催するなど、新しい試みが行われている。鮮魚・精肉などの食材配達、地域おこしに惜しみない尽力をくださる人々の存在など、ホームが安心して地域に溶け込める要因となっている。	地域との関わりを大切に積極的な活動が展開されており、今後も一階にある多機能事業所と連携を図り、地域貢献を兼ねた事業所にできる新たな取り組みが展開されて行く事に期待が持たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春には、前栄会（地域）の協力を得て、カラオケ倶楽部（地域）の方を中心に、カラオケ大会を開催しました。また、秋には、母体とともに、福祉まつりへ作品の展示、パンフレット配布、宣伝等で参加協力しています。買い物、美容等で、利用者と一緒に地域へでかけることで、接し方、関わり等、支援する姿を地域の方に見て頂けていると思います。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や民生委員の方から、在宅高齢者の現状等聞かせて頂き、情報交換しています。利用者様の梅雨、猛暑等の利用者様への支援において。会議な中で、外出（外食）支援の口頭や記録での報告だけでは、実際の状況が伝わりにくい等意見もあり、写真を見て頂くようにしました。より、雰囲気等伝わりやすくなったと思います。	多目的ホールで定期的開催されている会議は、小規模多機能事業所と合同で開催され、参加者や報告・検討内容がわかりやすく記録されている。参加者より写真を使った報告がわかりやすいのでは？との提案に対応したり、災害対策についての意見交換など、有意義な会議となっており、運営に繋がりたいと真摯に開催していることが窺える。外部評価についても取り組みや結果・インターネット公開について説明されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新手続き、訪問調査、火災（防災）の報告また周知徹底等、認知症キャラバンメイトフォローアップ研修他、常に連携・関わりながら取り組んでいます。昨年12月には、短期利用共同生活介護（ショートステイ）も開始しています。開始するにあたり、書類の確認及び調整を行い、連携を密にとりながら取り組みました。	推進会議の案内書を持参したり、更新手続きをはじめ、管理者は役所を訪れる機会も多く、ホームの状況を伝えながら相談やアドバイスを受けている。管理者は今後も行政と連携し、昨年末開始したショートステイの活用やホームの持つ機能を活かしながら地域貢献に努めたいと語っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り付き添い支援が基本です。地域に開かれた、ホームであることを大切にしています。利用者様が玄関、ベランダ等へも自由に出入りして頂くようにしています。付き添い見守りを徹底し、声かけにも配慮しながら支援するようにしています。	拘束に繋がる行為については、毎朝のミーティングの中でも共有を図り、入居者の思いを全職員が受け止め、見守り・寄り添いの支援により、穏やかな時間を過ごせるホーム作りに努めている。職員が心身に負担なく業務に当たれるよう、特に新人職員が夜勤につく際は、ベテラン職員と一緒に経験を重ねたあとに夜勤につく体制が取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域密着型として、地域に開かれたホームとして、自信と誇りを持ち、ケアを行っています。利用者様の尊厳を守り、プライバシーの保護を基本として、笑顔での声かけ、支援を大切にしています。スタッフ皆が意識共有し支援することで利用者様同士での関わりある生活のお手伝い（支援）が出来ていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会をつくりながら、お互いで意識共有できるように努めています。制度等の概要を知り、専門職としての知識を持ち、役立てていければと思っています。高齢者の権利擁護を理解することで、利用者様が安心して暮らせるよう支援して行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、契約書及び重要事項の説明には、家族と確認しながら行うように心がけています。昨年12月からは、短期利用共同生活介護を開始することになり、それ以降の入居の契約においては、加えて説明行っています。家族より、状態変化時等や入院の際における対応や利用料金等についてもしっかりと説明するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との普段の関わりの中で要望等を聴きながら支援させて頂いています。特に、外出支援や外食支援では、行きたいとこや食べたいもの等を大切にしています。家族の方へは、普段の関わりの中で、意見や要望等、外出時はおしゃれにしてほしい、体を動かす機会を増やしてほしい、受診に関すること等さまざまです。	寄り添いの支援を大切にし、職員は日々の関わりの中で意見や要望を確認し、家族については面会時を中心に聞き取っている。今年度家族から、入居者・家族・職員と一緒に食事会をしてはどうか？との提案を受け、外出を兼ねた交流会が実現している。また、体を動かす機会を増やして欲しいとの要望を受け、生活リハビリや外出支援の充実と合わせ、楽しみながら体を動かす午前中の体操(きくちゃん体操)が日課となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月1回偶数月に、全体会議では、各事業所より、職員の意見交換ができる場が設定されています。毎月のミーティング(GH)話し合いの場を持ち、よりよいホームになれるよう心がけています。母体主催の事例研究発表会では、法人全体で、事例を通して学びを深めました。勉強会(感染症等)、研修委員会等に参加、関わりを大切にしています。	毎月のミーティングで出された意見や要望は、法人の会議でも意見交換が行われるなど、法人全体でホーム運営を支える体制が構築されている。管理者は年二回以上、または状況に応じ職員との面談を行い、コミュニケーションを図りながら、働きやすい職場環境に繋げている。職員の聞き取りでもチームワークや今後の目標などに意欲的な決意が表れていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時、礼節において挨拶から始め、これから支援させて頂く確認の意味で行っています。支援する際は、スタッフ其々の支援、得手不得手も、時には生かしながらかケア(支援)につなげています。礼節で、専門職としての意識を持ち、支援するように心がけています。人事考課では、モチベーションを保ち、自分を振り返る機会としています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GHの支援では、認知症ケアに自信を持ち関わるようにしています。礼節より始まり、スタッフで認知症について勉強したり、意識共有を行い、ケアの方法や関わりを学んだりしています。新人職員に対しては、基本を押さえ、認知症の病態、症状等から学んでもらいます。普段、支援する中で学びを大切に、お互いで意識しながら取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池・鹿本ブロックの協会に入会、お互いの情報交換、研修会等開催しています。GHの事業所も多くなり、今年度から、鹿本とは別々に活動することになりました。お互い、GHの事業所の為、相談や話をさせて頂くこともあります。大変参考になる部分もあります。連携しながら、ネットワークを作りサービス向上に努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や友人(知人)等、地域の方との関わりを大切に、GHという環境にゆっくり馴染んで頂けるよう、スタッフ皆が、笑顔で関わりを持ちながら、支援させて頂いています。傾聴・共感の姿勢で、馴染みの関係づくりに努め、本人にとって、居心地が良く、安心できる環境を築けるよう心がけています。家族との関わりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様がGHの環境に馴染んで頂けるように、家族と普段の関わりの中で、何でも話をしてもらえるような関係づくりに大切にしています。家族は、本人様の状態等、経過を伝えることで、一緒に関わりを強め、本人の支援をして行けるように考えています。家族との連絡体制も整えながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向も踏まえながら、利用者様がホームで安心して暮らせるために、住み慣れた地域やふるさとの方との関わり等、インフォーマル資源の活用を大切にしています。また、状態観察を把握し、本人の支援が必要部分は、家族等より情報交換を行いながら自立支援を基本にサービスを提供すること考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるよう普段の生活の中で、家族のように寄り添い支援を大切にしています。洗濯物を干したり、たたんだり、掃除や食事の手伝い等も一緒に行っています。いつもと違ったり、元気がない様子見られる時は、笑顔で声かけ、関わりを持ちながら支援しています。本人へ、大切な存在であることを伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お盆や正月等は、ホームから家族へ、利用者様と一緒に過ごす機会がもてるよう働きかけています。毎年恒例になった、小規模との合同運動会では、家族の方に参加して頂き、食事(弁当)をしながら、楽しく過ごす機会を設け、家族の絆を深めるようにしています。普段とは、違う表情が見られ、家族との関わりは大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(住み慣れた地域)や外出(外食)等に出かける機会を支援することは、利用者様が安心して生活するうえで、大変大切なことと考えています。家族へ働きかけながら、馴染みの場所に行かれたり、家族、孫(ひ孫)、兄弟姉妹等と会い絆を深めたり、また、ホームを訪れる知人(友人)等との関係性の支援を大切にしています。	馴染みの生活継続の必要性を全職員が共有し、飴市やつつじ祭りへの外出など入居者にとって慣れ親しんだ場所へ出かけたり、俳句や調理を手伝ってもらうなど、これまでの趣味や特技を継続して支援している。また、家族や親類・友人などが気軽にホームを訪れやすい雰囲気を心がけ、墓参など入居者の安心に繋がる外出には家族へも働きかけを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の普段過ごす場所である、リビングやテーブル等は、馴染みの場所(位置等)で利用者同士、関わりを持てる支援を行っています。スタッフは、関係性が保てるように、環境に配慮しています。利用者同士、お互いを思いやる気持は、大事にしながら、食事、レクリエーション等、笑顔が見られ、楽しく過ごせる雰囲気づくりを支援します。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の状態の変化に伴い、家族へ経過を報告しながら、関係性を保つようにしています。病的な部分の治療が必要になりGHより医療機関への入院になった場合は、本人の状況(経過)確認し、家族と今後の方向性を話し合います。本人・家族との関わり保ちながら、できる限り支援していきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の意向や要望等を聴き、状況を把握するようにしています。家族への思い、行きたい場所、食べたいもの等思いや意向を反映できるようにしています。また、個別支援、ケアプランに反映できるように心がけています。傾聴・共感する姿勢で支援しながらも、過度に支援(ケア)しすぎないように、自立支援にも配慮しています。	寛げる空間が随所に設けられたホーム内で、職員は入居者との関わりの時間を大切に、思いや意向を確認している。また、家族からの情報が活かせるように、来訪時には近況を伝え、気づかれたことがないか確認している。寄り添いの中で傾聴・共感の支援を心がけ、入居者の残存能力を発揮できる対応をプランの中に取り入れる工夫も行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活背景を踏まえながら、支援すること考えるようにしています。利用者が、生きてこられた状況を家族等からも情報交換して支援につなげていけるようにしています。その方に応じて、役割を持って頂き、暮らしの継続ができるようにしています。家族との関わりは大切である為、常に関わりが持てる環境に配慮しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝は、四季に応じて、カーテンを開け、日差しを浴びて、生活リズムが整うように、まず働きかけを行っています。朝・昼・晩の食事、10時、3時(15時)のおやつ、朝から、挨拶(おはよう、こんにちは等)を見当がつきやすいように伝えています。屋外に外出する機会では、日光を浴びて、夜間は、良眠できるように働きかけています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態を観察しながら、その方に応じた、生活支援につながるプランを作成しています。モニタリングでは、プランを見直し、生活支援において状態変化等確認できるよう心がけています。担当者や他スタッフや家族からの情報収集を行い、生活支援を基本に、身体的・精神的に配慮した支援をケアプランに盛り込み反映出来るようにしています。	本人・家族の思いや意向を把握し、職員の意見、自立支援にも配慮したプランが作成されている。また、半年ごとの見直し・評価を基本とし状況に応じたプランは、計画作成担当者によって、本人・家族が安心できるような丁寧な説明を心がけた承を得ている。個別記録からも職員の日頃の関わりや情報の共有が入居者のそれぞれの日常を支えていることが確認された。	職員の聞き取りからも資格取得や自己学習への意欲が確認され、今後も年間研修計画の中でプランに繋がる計画が充実されていくことに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態観察を密に行い、バイタル、検温またその日の状態等を健康チェックを記録、スタッフで情報を共有できるように活用しています。排泄状況は、個別に排泄表を活用し、排泄（排便）時間を観察・確認できるようにしています。日常生活におけるさまざまな出来事や状況等、また、家族の関わり等も記録するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のような関わりを大切にします。外出や外泊は、家族の希望を大事にしています。この春には、家族の方の提案で、親睦会を計画し他家族に呼びかけ協力して頂きました。利用者・家族・スタッフで高森町にて、郷土料理の田楽を食べながら、交流を深めることが出来ました。今後もGH（小規模）のメリットを生かして支援して行きます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を活用することが大切です。地域より、食材の調達、精肉、鮮魚、野菜等をはじめ、パンは地域（活動支援センター）より調達しています。美容室（散髪）では、美容室の方に見守り支援をして頂き、利用者様も安心利用されています。地域のイベント・行事等に参加、地域密着として関わりを深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医である山縣医院には、毎月経過観察（報告）を兼ね定期受診行い、支援しています。突発的な状態変化時等は、主治医報告、指示（受診）を仰いでいます。家族へは、状況により、経過報告するようにしてます。健康診断やインフルエンザ予防接種等では、主治医、他看護師、スタッフと連携行っています。	現在、全入居者が協力医をかかりつけとしている。受診には職員が付き添い、受診も外出の機会としてゆっくりとドライブしながら帰宅するなど工夫している。必要な結果を家族へ報告し、歯科や皮膚科などの他科受診の際は家族からの受診結果を受け、特に服薬内容などに関する情報を協力医へあげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者様の支援において、小規模（1階）の看護師と状態変化等は連携を取り、状況を確認、観察に努めています。普段から、GHの利用者様と関わりを持ってもらうようにしています。毎月の定期受診は、付添支援（同行）を行うようにしています。管理者・スタッフは、看護師と関わりながら、支援するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化に伴い、協力医療機関へ入院する状況がみられています。GHでの支援が難しくなった利用者様において、家族へ情報交換、連携を密にとりながら、協力医療機関へ入院支援を行いました。新入居の方においては、直前に病院へ入院され、関係機関及び家族と連絡を取りながら、本人の状態を見て総合的に受け入れを確認しました。主治医へ報告、入居の判断を仰ぎ、入居に至った経緯があります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況において、状態変化等によりその後の生活(支援)の方向性を出す状況(時期)が、必ずやってきます。重度化及び支援が困難になった場合は、主治医、家族、管理者、スタッフ等で、今後の方向性を話し合います。看取りにおいては、看護師の確保やスタッフの研修等も必要になってきます。GHで、できるだけ長く暮らして頂けるよう、スタッフ皆同じ意識で支援しています。	入居者の状態変化に伴い、必要な時点で担当医師を交え家族との話し合いの場をもっている。医療が常態化すると、職員体制の点からも支援が困難としているが、本人や家族の意向をしっかりと把握し、ホームで出来る支援に努めている。管理者は看取りの有無ばかりではなく、入居者のホームでの生活をより充実したものにしたいと語っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンコール体制を整えています。主治医への連絡体制をとり、他対応マニュアルに沿いながら等対応できるようにしているところです。特に、夜間においては、スタッフ1名での勤務になります。普段の状態を把握し、状態が変化(異変)を早期に発見できる観察力が必要になってきます。その日のリーダーでオンコールを担当するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は消防署も立ち会い)防災(災害等)訓練を行っています。火災においては、初期消火、通報、避難誘導をできるよう、普段のシミュレーション等が必要と感じています。発生場所により、避難通路の確保、消火器(消火栓)の場所、取扱い方法等も訓練時確認行い、普段から意識し、対応できるように心がけています。	年二回の火災訓練のうち、一回を消防署立ち合いの総合訓練とし、推進会議の中でもAEDの講習が行われている。ホームは建物2階にあることから、常に避難経路を意識し、先ずは火を出さないよう普段の安全点検を心がけている。地域の防災組織が立ち上がり、管理者が委員として会合や訓練に参加している。	地域の防災組織が立ち上がっており、自然災害時の土嚢などが保管されている。ホームでも必要な品を検討し、備蓄として有事に備えることが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	礼節を重んじて、利用者様の尊厳を大切に思い支援しています。専門職として、ノック、声かけ等プライバシーに配慮し支援しています。同性支援を行い、安心できる環境に努めています。戸は、普段閉まっていること、戸が開いている場合は、なぜ開いているかをきちんと分かるようにしてます。礼節が基本にて、共通認識での支援を行っています。	本年度は特に、「礼節」を重んじ、日々の生活の中で入居者への言葉使いや対応を今一度見直し、統一した支援ができるよう努めている。呼称は基本的に苗字だが、本人が安心されるよう下の名前でも対応している。入居者のこれまでの人生を尊重し、排泄用品が目につれないよう配慮したり、食事の際にはエプロンではなくタオルで対応し、衣類の選択や清潔保持など、入居者の尊厳を大切にしたい関わりが実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	GHは小規模(少人数)で、家族のような関わりができる場所が良いところであると思っています。行きたいところ、食べたいもの等は、利用者様のご希望等を普段の関わりの中で把握するようにしてます、ある程度のがままでもできる限り聞きながら、支援するように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	挨拶やお互いの関わりを大切に考えています。本人の時間を大事に、できる限りその人らしく過ごせるような支援を心がけています。生活リズムを整える為、食事・おやつ・レク、体操等の日課、等の時間を基本にしています。自由な時間、テレビを観たり、音楽、民謡等聞かれたり、部屋の整理、昼寝(昼食後)や読書等、本人過ごし方を支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の服(日常着)、就寝時の寝巻への着替えは、メリハリある生活として大事にしています。起床後の洗面整容等は、日常生活するうえで基本的な事です、が大変、大切なことだと思っています。外出時やイベント、行事等は、特におしゃれ、身だしなみに配慮して支援するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは本能であり、楽しみであります。食事を作る過程で、つくる音、匂い、見て、味見したりと五感を刺激しています。その時期に応じて、食事を楽しんで頂きながら、家庭の雰囲気の中にも、ランチオンマット、箸置き、おしぼりを備え、オルゴール調の心地よい雰囲気の中で、楽しく、明るくをモットーに、美味しく食事することを第一に考えています。	担当職員が入居者の希望や好みを取り入れながら、一週間分の献立を作成している。肉・魚料理はその種類まで紹介し、分かりやすさを心がけている。入居者は新しくなったランチオンマットを敷いて準備し、テーブル拭きや得意な白和え作りなどに関わっている。家族との外食も計画され、バスハイクで阿蘇の田舎なども取り入れている。また、一階の小規模事業所との合同食事会も継続して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の委員より、方向性を出しながら支援しています。献立は、担当者（一週間）また管理者とで栄養のバランス等を考え提供しています。母体の管理栄養士へ相談しています。肉や揚げ物（フライ等）は、できるだけ、昼食で提供していましたが、夕食から朝食までの時間も長い為、提供することには問題ない事等、アドバイスを頂き実践しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアは、大変重要であると思っています。毎食後の口腔ケアは欠かせません。ケアを重視することで、入れ歯の不具合や、口内炎等異変に早く気づくことができていると思います。自立支援を基本に、確認作業は、一緒に行うようにしています。必要性がある方には、家族と相談関わりを保ちながら、訪問歯科等受診するようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを個別に記載し把握に努めています。排泄パターンや便秘の確認等、状態把握行い支援しています。昼間は、トイレでの排泄支援を行い、できるとこ、できないとこを把握し自立支援を行ってます。尿意のサインを察知し、トイレへの声かけや時間（定時誘導）状態により支援、馴染みのトイレで、安心して気持ち良く排泄して頂いています。	自立した方の継続を見守り、個別のチェック表で時間誘導を行い、しぐさや表情でサインを見極め、日中のトイレ支援を行っている。個々に必要な排泄用品を検討し、夜間帯のトイレ誘導やポータブルトイレの利用者の安全にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、ヨーグルトをおやつや食事の献立に加えたり、食物繊維の多い食べ物を心がけたりしています。普段の生活の中で、歩く機会をつくり、蠕動運動にも働きかけるように努めています。しかし、高齢者の便秘解消には至らないこと多く、便秘薬や下剤も併用しながら、支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節により、菖蒲湯、ゆず、みかん等、またお茶風呂や入浴剤も楽しんで頂いています。気持ち良く入浴して頂く為に、脱衣所・浴室は衛生的に保つように心がけています。体調等が悪く、入浴できない時は、清拭または下半身浴での対応と清潔保持に努めています。同性支援を確立しており、利用者様が安心して入浴できるよう支援しています。	入居者が気持ちよく安心して入浴できるよう、浴室や脱衣所の環境を整え、季節の柚子や菖蒲、みかんやお茶風呂など趣向を凝らし支援している。拒否をされる方もおられるが、時間をみて声をかけたり、別の職員が誘うなど工夫しながら間隔が空かないよう支援している。浴室のロングマットは職員の意見により新たに購入されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝起床時から、光(日光)を浴び、規則正しい生活を基本にしています。昼食後は、30分～1時間位を目安に昼寝して頂いたり、またりビングや部屋(自室)でゆっくりくつろいで頂けるようにしています。運動(体操・レク等)や他者との関わりや屋外活動(日光浴等)は、適度な疲労感となり、気持ち良く眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服は、把握できるよう努めています。状態変化等で内服が追加処方になった時は、その症状の経過をはじめ、状態を観察し、主治医へ報告するようにしています。利用者によっては、薬が効きやすい方もいます。食事が減ったり、便秘になったり、傾眠やふらつき等もある為、状態観察が大変重要です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中で、日常生活でのレクを役割として頂き、支援しています。スタッフが感謝の言葉をかけることで、充実した毎日を過ごして頂いていると思います。レクリエーション活動では、お互いのキャッチボールを大切にしています。母の日カーネーションづくりや、6月アジサイ、7月花火、8月あさがおの作品等、利用者様に作って頂きました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、外出(外食)に出かけています。この春は、前々からの要望があった、熊本城見物、杖立て温泉のコイのぼり見物に出かけました。桜、アジサイ、コスモス、紅葉等、季節を肌で感じて頂くことを大切にしています。外出支援は、気分転換、ストレス解消等、大切なものと考えています。今年の試みとしては、家族の協力体制のもと、利用者、家族とスタッフ親睦を深めることが出来ました。	入居者の要望や職員の意見を反映し、様々な外出が実現している。季節の花見や近隣食堂での外食、鯉のぼりやお城見学などの遠出も支援されている。外出には家族も積極的に関わり、入居者との時間を大切にしている。また、ホーム周辺の地域資源を継続して活用し、馴染みの商店や図書館などへも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持するお金は、預かり金として、医療・理美容等の支払いが中心になっています。今秋のぶどう狩りへ行った帰り、利用者様より、"お土産に子供へ買おごたる"との要望があり、預かり金より購入して頂きました。ホームでの生活では、直接本人が買い物する事等はあまりありませんが、買い物等に対する楽しみ等にも配慮したいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人の希望で、知人、友人また家族へ電話をしたいとの要望がありました。状態見ながら、安心されるように電話で話を頂き支援することもあります。年賀状での支援も行い、名前はできるだけ本人に書いて頂き、状況により、代筆しています。利用者とともに、郵便局へ投函支援行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見通しのよいフロアで、木の温かみを感じ利用者が心地よく過して頂いていると思います。木製椅子やソファ等は整理調整しながら支援行い、移動する際、妨げにならないように配慮しています。今夏は、猛暑の影響もあり、西側のリビングにはよしずを購入、日差しの具合を見ながら、まぶしさ、暑さ等が軽減できるように調整しています。スタッフ皆が、気持ちよく過ごせる環境づくりに配慮行い支援しています。	職員は共有スペースのリビングやトイレ、浴室などの住環境を整え、入居者が快適に生活できるよう空間作りに力を入れている。入居者は食後もリビングを離れることなく、ソファコーナーに場所を移しながら会話やテレビを楽しみ、ゆっくりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの場所、居心地の良い場所があり、大切な場所として支援しています。認知症の症状による、しぐさや行動及び行為に関しては、不快に感じて、トラブルになることもあります。ソファの設置場所を変更したり、また、利用者様によっては、気持ちをリセットし、利用者様が不穏にならないように、馴染みの環境に配慮することを大事にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の部屋(各個室)では、プライバシーが保たれており、戸は閉まっていることを基本にしています。開ける時は、きちんと分かるように促しています。家族が面会に来られた時は部屋(自室)で、気兼ねすることなくゆっくり面会して頂いています。その際、おいしいお茶をお出しして、おもてなしの心を大切にしています。	各居室には入居者に馴染みの品が持ち込まれ、使い慣れた家具や家族写真は日々の心のよりどころとなっている。家族手作りのクロスで排泄用品を目隠したり、家具のレイアウトと一緒に検討するなど使いやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GHはバリアフリーの構造で、床は木を用いています。歩行不安定な方へは、手すりの使用を促し付添い支援を行っています。利用者様の状況により、シルバーカーや歩行器、車椅子等にて支援しています。見当識障害がある方へは、部屋への案内や表札をつくり、促しを強めています。トイレへ声かけも簡単明瞭に伝えるようにしています。		